



No.40

2021.02.09



シニアの学び舎

レイカディア大学だより 草津校

シニアが新しい教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援しています



守山市湖岸より比良山系を望む
(写真提供 サポートの会 広報情報部会員)



健康づくり学科 健康と栄養 調理実習

出会いを大切に
シニアが **輝く** 学び舎



園芸学科 洋風寄せ鉢の実習



陶芸学科 作陶

レイカディア大学 草津校

60歳以上のシニアが集う大学です。新しい知識・教養と技術を身につけるとともに、ボランティアや仲間づくりなど地域活動を楽しく学ぶことができます。園芸・陶芸・びわこ環境・地域文化・健康づくりの5学科があります。

ここレイカディア大学で今までにない新しい仲間たちと出会い、ともに学び、活動する喜びを思いっきり満喫してください。



びわこ環境学科 水質検査の授業



園芸学科 剪定の実習



地域文化学科 史跡の校外学習



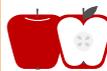
フラットで意見の言いやすい 雰囲気組織に！

10期サポートの会 代表 一色 実
(39期びわこ環境学科)

いろいろな活動には竹の様な節目があります。サポート隊発足から10年を迎えた節目に、何かに引き寄せられて活動をする事になりましたが、良い仲間恵まれて、やりがいを感じながら楽しく取り組みました。初めは漠然と学びの機会とクラスの仲間巡り会えたレイカディア大学に恩返しをしたいと思い、9期の西澤隊長から声を掛けられたときに「ハイ！」と返事をしてしまったのです。

10期をスタートするときに、まず、名称を「サポートの会」に変更しました。大学の存続をかけて必死に取り組まれたときから、フラットな組織で意見を言いやすい雰囲気に変えたいと思ったためです。また、年々厳しくなる学生募集への対応のため、学生募集プロジェクトを新設し、各部会・クラブからメンバーを募って全体の活動にしました。更に、新たな試みとして、全学生へのアンケート調査を行い、課題の発掘やその対応を事務局と協議しながら、学生の声を生かし、レイカディア大学の魅力を高めるための提言を行いました。

コロナ禍の影響で、6カ月の休校となり、諸々の活動が滞る状況になりましたが、日々の地道なサポートの活動を通して在学生・事務局・サポートの会の距離が近くなり、ともに悩み、ともに歩んできたことが、大きな実りとなって、次のステップへの力になると信じています。



現役生と卒業生が 「考え、語り合う場」の創設を！

10期サポートの会 総務 北田 彌生
(39期びわこ環境学科)

サポートの会で、皆様と共に様々な活動に携われることに日々感謝しています。総務に女性が席を占めるのは初めてですが、紳士の皆様のお陰で快適です。

始まりは大学祭の展示場の喧騒の中での思いがけない西澤代表のお誘いで、何か役割があるかもしれない、と、即、引き受けました。私の一番の関心は、カリキュラムの見直しと講師の再評価で、昨夏からの「提言」プロジェクトのなかで、考えを振り返りました。大学の40年余の歴史の重みと、改変への低くないハードルも認識しましたが、時代のニーズを捉えながらもシニアに普遍的な課題は明らかです。この提言が具現されることを強く願っています。

今後は、学術的なイベントなどで現役生と卒業生が、考え、語り合う場の創設が待たれます。

発行10周年 「レイカディア大学だより」

記念すべき40号発行にあたり、2期広報情報部会長の教野弘孝さんに当時の一致団結の様子を投稿していただきました。第3号(2011年10月)から広報情報部会長として活躍され、今日の礎を築いていただきました。

読者が待ち焦がれる広報誌を！

この度の「レイ大だより40号」がメモリアル号となる十年の節目のその時に「広報誌づくり」に関わらせていただいていることの喜びを部員一同で感じているところです。

十年前といえば、諸先輩方がレイ大存続の危機を乗り越えられて再出発をされた頃、「サポート隊」発足間もない頃でもあります。そして今、昨今の新型ウイルス騒動の渦の中、形は変われど学校存続の危機に直面した私たち。いづれも、在校生と卒業生が真剣になって対応に奔走されたことで存続の危機は乗り越えられています。「レイ大だより」十年の歴史から、困難を克服される様子を伺うことができます。私たち10期中心の活動も残りわずかではありますが歴代広報の関係者方々の思いを継承し「読者が待ち焦がれる広報誌」にしています。

10期広報情報部会長 西島 正美 (39期地域文化学科)



編集会議



10期広報情報部会

寄稿

2期広報情報部会長 教野 弘孝さん
(32期陶芸学科卒業)



親しみある広報誌を目指して

広報10周年おめでとうございます。
私はレイ大卒業後、第2期サポート隊の広報情報部会長に任ぜられました。着任後、部会を3班に分け①ホームページ新設・運用、②パソコン教室の開始、③「レイカディア大学だより」の発行の業務としました。「レイカディア大学だより」は第6号(平成24年7月発行)から従来の白黒からフルカラー印刷に変更し、カラー写真の魅力を活かした親しみある機関紙を目指しました。記事によっては投稿依頼よりも部会員での取材を重視し、パソコンに詳しくない部会員でもインタビュアーとして活躍してもらうことにしました。

広報部会の新年会では陶芸学科の茶碗でぜんざい会、月例会では茶話会や昼食会などが楽しい思い出です。

当時の部会メンバーが、現在同窓会各支部の広報紙担当メンバーとして活躍しておられるのを見ると喜ばしく感じています。

40号発行の記念にあたり、レイ大を広く紹介する最大の広報誌発行部会として、ますますの活躍を期待しています。



当時の編集会議の様子

ご協力を
お願い
します

**43期学生募集
準備中です**

**仲間をつくって
健康寿命を延ばそう！**

学生募集プロジェクトチーム

第43期 学生募集
2021年6月～8月の予定

☆人生100年時代
仲間をつくって
健康寿命を延ばそう！

☆レイカディア大学の魅力
多くの人に
知ってほしい！！

☆新しい仲間との出会い
生き甲斐のある
充実した人生に
するために！！

新たな体制で頑張ります

43期学生募集は新型コロナウイルス感染症の影響により、1年間延期となりました。

私達「学生募集プロジェクト」チームは、これからの学生募集の重大さに鑑み、今期よりサポートの会全体で取り組むこととなった新たな体制のプロジェクトチームです。

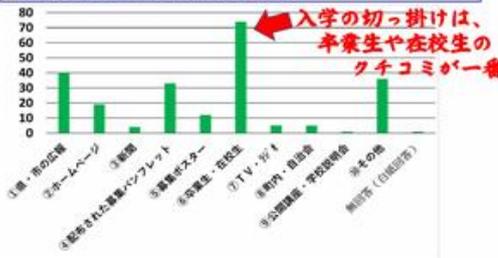
サポートの会5部会からそれぞれ2名の方に参加して頂き従来の活動内容を踏襲するだけではなく、プロジェクトチームとして新たな視点で活動して参ります。



リーダー・大野 光男さん
(39期びわこ環境学科)

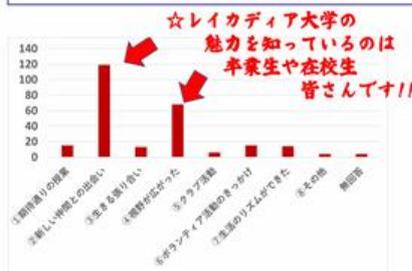
レイカディア大学の学生募集を最初に何で知りましたか？

- ★1. 卒業生・在校生、或いは知人・身内・会社関係などの人を介する
情報提供が募集を知る最初の切っ掛けとして大きい。
- ★2. 県・市町の広報誌からの情報提供も大きい。
- ★3. 配布した募集パンフも有効な手段といえる。



レイカディア大学に入学して良かったことは何ですか？

- ★1. 人と人のつながり、しがみのない新しい仲間との出会いが良かったこと
- ★2. 世間の見方、視野を広められたこと。



**アンケート調査結果は
「^{くち}口コミ」が効果大！！**

「学生募集を最初に何で知りましたか？」のアンケートを取ると毎年ほぼ同じ結果になります。一番多い回答は卒業生・在校生からの口コミです。しかしながら行政の広報や大型スーパーでの募集パンフレットの配布など地道な活動も重要です。また変化する社会に応じて新規開拓も必要です。

42期生募集活動の様子



草津市立水生植物公園みずの森で開催の「竹灯籠展示会」にて



イオンモールで開催の「陶芸作品展示会」で学生募集活動



『^{くち}口コミ活動』にご協力を

仕切り直しの43期学生募集は、募集案内の内容も従来と視点を変えてコロナ禍の中でも楽しい学校生活を見やすく、分かりやすくページ数も従来の2倍の8ページを考えています。(配布時期：3月末予定)

コロナ禍で学生募集活動にも多くの制約が発生しています。特に募集案内パンフレットの配布は、従来から同窓会の応援を頂き大型スーパーでの店頭配布をお願いして参りましたが今年も厳しい状況です

皆さん！「レイカディア大学」の素晴らしさ・楽しさをお知り合いの方々に是非伝えて下さい。

皆さんの友人・知人・近隣の方への口コミ活動で多くの方が入学されることを期待します。

今後の学生募集活動に絶大なるご協力をお願い致します。

学生募集プロジェクトチーム
リーダー 大野 光男

「レイカディア大学へ入学して良かった!!!」の声がたくさん聞こえてきます♡

取材

在校生の皆さんに入学しての思いを取材しました。一様に「入学してよかった。充実した学生生活です。友達がたくさんできました」と、楽しい学生生活の様子が伺える返事が返ってきました。

取材／近松 蟹江 倉持

在校生の声

もっと野菜づくりがしたくて!



原 多恵子さん

42期 園芸学科 B

情報交換で視野も広がり



廣原 美照さん

41期 園芸学科 B

作品の出来上がりに感謝



泉 喜代子さん

42期 陶芸学科

いい呑み友達もできて!



朝田 文作さん

42期 びわこ環境学科

在職中の職場の仲間と上司がレイカディア大学に通っていたので、大学のことはよく知っていました。

家庭菜園で野菜作りをやっており、もっと野菜作りの勉強をしたくて入学しました。

コロナ禍で休校が多かったのですが、園芸のことに興味がある方ばかりなのでいいお仲間がすぐにできました。

絵手紙クラブに入部して楽しく活動しています。

大津支部同窓会へ体験に行き、小学校の校庭剪定や環境整備に参加しましたが、引き続きその活動をしてみたいと思っています。

もともと園芸に興味がありましたので、リタイヤ後は自宅の庭での花作りや畑での野菜作りをしたくて、園芸学科に入学したいと思っていました。期待通りに入学でき、視野も広がり友達もたくさんできました。

休講中にはLINEでその友達と野菜作りの情報交換ができてとてもよかったです。休講中にそんなやりとりができたので、半年間学業が長くなりましたが、私は休校延長は得した気分です。

卒業後も引き続き付き合える友達がいっぱいできたのも嬉しいかぎりです。

以前にレイカディア大学の食堂に勤務していました。そのときに37期陶芸学科の方が入学を勧めてくださいました。もともと陶芸にとっても興味があり、陶芸学科を選びました。そして、絵画にも興味がありましたので、入学後は絵画クラブに入部しました。

陶芸の授業では粘土をこねるのがしんどくて重労働です。でも、作品ができあがったときの感動がすばらしくてそのしんどさにも耐えられます。

学科の仲間は皆仲がよくてとてもよかったです。

知人の紹介でレイカディア大学へ入学しました。入学後はコロナ禍で授業が少なく残念です。クラスの雰囲気がよくて友達もすぐにできました。いい呑み友達もできました。学習の発表会では仲間と「琵琶湖の成り立ち」についてまとめました。今はその発表をすることが楽しみです。

栗東市社会福祉協議会ボランティアセンターで自分に合った活動を探して、卒業後もボランティアを続けたいと思っています。

投稿

卒業生の声

山崎 明成さん

40期 びわこ環境学科



卒業後も仲間と交流が続いています

近所の方に誘われて入学致しました。

びわこ環境学科を選択し、これまで環境問題に関して無知であった事を思い知らされました。お蔭でエネルギーや環境問題について敏感になってきて、少し成長したと思います。

一番楽しかった思い出は学科の仲間と楽しくやり遂げた大学祭です。

卒業後は、共に学んだ仲間と趣味やボランティア等で交流が続いています。そうした中で教養(今日用事がある)教育(今日行くところ)が出来て、刺激を感じながらの生活を送れている事は有り難いと思っています。

西嶋 恵子さん

39期 健康づくり学科



父・叔父・叔母が卒業生であり夫と共に入学し卒業しました!

その昔、私の父、叔父や叔母たちがレイ大に通っていました。現役をリタイヤした人たちの意気揚々とした姿を近くで見参りました。そして、いつしか私も同じ年頃になりました。夫がレイ大入学を希望していることを知り「私も学ぼうかな」と迷っていると亡き父の充実した姿を知っていた母や叔父、叔母までもが「是非とも入学しなさい」と背中を押してくれたのです。

学校ではボランティアなどの地域貢献の心を教えて頂き、卒業後も地域の「健康推進員」や「福祉委員」などに関わらせて頂いています。これらはレイ大で学んだ教えと共感することばかりです。

委員会やクラブ活動を通じて学科や学年を超えてのお友達ができたことも嬉しいです。私の一生の宝です。

福元 隆広さん

34期 地域文化学科



楽しくて面白くて再入学しました!

私は会社の先輩からレイ大を紹介されていたので、退職後、何の迷いもなく地域文化学科に入学し、滋賀県の歴史文化等を訪ねました。卒業後も同じ学科の仲間や、城郭探訪会の人たちと様々な活動をしています。学生時代学ぶことが楽しいと感じたことがなかったのですが、現在では歴史好きもあって史跡を訪ね歴史を学ぶことが楽しかったです。いまはリカレント制度ができて、再入学し42期園芸学科で新しい仲間と楽しく学んでいます。若い頃、サークル活動に長く関わってきました。いろんな方と親しくなる仲間づくり「レイ大は楽しく面白い」です。

皆さん高齢者などとは感じさせませんよ。



学習成果展示会

令和2年
12月19日

スローガン

広げよう！「繋がり」 深めよう！「絆」

★ 41期 地域文化学科



★ 41期 園芸学科A



★ 41期 園芸学科B



★ 41期 陶芸学科



★ 41期 びわこ環境学科



★ 41期 健康づくり学科



★ 42期 地域文化学科



★ 42期 園芸学科A



★ 42期 園芸学科B



★ 42期 陶芸学科



★ 42期 びわこ環境学科



★ 42期 健康づくり学科



★ 絵画クラブ



★ 絵手紙クラブ



コロナ禍の師走、『広げよう！「繋がり」 深めよう！「絆」』のスローガンのもと、「学習成果展示会」は新型コロナウイルス感染拡大防止のため入場者を限定して開催されました。様々な制約を受けながらも、それぞれに繋がり、絆を深め学習成果を表現した力作の揃った展示会となりました。

取材／森下

卒業生の 皆さんは今！

特定非営利活動法人 YORISOInetwork

代表 布施 太一郎さん(38 期園芸学科)を取材しました。クラスメイト 4 人で NPO 法人を設立され、その苦勞と喜びをお聞きました。



布施代表



メンバーの岡部さん

寄稿 布施 太一郎さん

◆3つの『想い』

子どもに寄り添う
孤独高齢者に寄り添う
自然に寄り添う

私達はレイカディア大学の課題学習において「福祉・環境保全関連に取り組む」チームとして発足しました。様々な団体から信頼を得るには、ゆくゆくはNPO法人設立を目指したいとの思いで、大学の職員の方から相談窓口をお聞きしたり、4か月間は活動に必要な知識を得るため奔走しました。結果「子ども・自然・高齢者に寄り添う」の三つの柱で活動を始める事としNPO法人として認定されました。

二年間園芸学科で学んだ経験を生かし、子ども食堂に提供する野菜を減農薬で栽培する事としました。今では子供を育てるプロジェクトに登録され、県社協を通じて、県内の子ども食堂に提供されています。

レイ大卒業後は他の学科の方や在校生の方も仲間に加わって下さり現在 28 名の会員で活動を続けながら、活動を通じて、地域の方々に元気づけながら私達自身も成長を続けていく、こんな活動を目指しております。

設立当初より多くの方々からのご支援を戴き、この活動も五年目を迎えております。「人生を楽しく生きる」この言葉を思い浮かべながら、仲間の皆さんと一緒に活動を進められる事を願っております。



後列左からメンバーの堀田さん
深尾さん新さんと布施さん



焚火の前で焼き芋を待つ子供たち

12月5日びわこ文化公園で「焼き芋フェスタ」が開催され、若い12家族28名が集まりました。

10時に開会の挨拶が布施代表からあり、一同既にスタッフが用意した煙たなびく落ち葉の焚火に緊張しつつ、興味津々の様子で自分たちの芋をアルミ箔に包み、焼灰の中に入れて貰いました。

焼き上がるまで研修室にて、岡部さんの樹木の話などを聞いた後、スタッフに焼き芋を取り出してもらいました。初体験の焼き芋を美味しく食べている子供たちの姿をスタッフの皆さんがそっと暖かく見守っておられたのが印象的でした。布施代表に伺いました。事業を継続されてきた原動力は？「参加された子供たちの笑顔と有難う！の言葉ですね！」レイ大の皆さんへ一言「ボランティアの楽しさを一緒に満喫しましょう！」取材/沢村、柏木

トピックス

「甲賀駅を育てる会」会長 岩崎 延幸さん

(39 期地域文化学科)

「郷土愛」を力にして

「甲賀駅を育てる会」

甲賀駅を育てる会・JR 甲賀駅改築 10 周年記念号パンフレットの見出しに『みんなで創りあげた甲賀駅』とありました。5 年前の平成 27 年に発行されたもので、草津線と甲賀駅の歩みを知ることが出来ます。

当初から「甲賀駅を育てる会」の中心メンバーとして活動され、現在は会長を務められる岩崎延幸さんを訪問取材しました。

岩崎さんは、1,000 人からなる会員と共に駅舎周辺の美化をはじめとする花壇植栽や観音ツアー、JR と協賛のハイキングや各種イベント開催に取り組まれています。



整備された花壇



駅前を清掃整備する会員の皆さん

『甲賀駅を核とした活気あふれる住みよいまちづくり』を目指す取り組みは、岩崎さんから湧き出る郷土愛の一言一言が、会員皆さんの先頭に立られていることの証であり「まちづくり」の原点なのだと思わせてくれます。

『ここらは田舎で、都会の人からは住み難いと思われるかも知れませんが、私らは反対にそれが自慢でもあると思っています。のどかで、みんなが素朴で、あくせくしてへんし、何するにも協力的で良いとこやね』と確信のあるお言葉です。

10 年余のこうした活動のさ中、岩崎さんはレイ大に入学され地域文化を学ばれました。『何とも不思議な出会いの縁でかけがえのない仲間づくりが得られたこと、近くに住んでいながら知らなかった地域の文化を学べたこと、これらは今の活動に通じるものがある』などとお話される姿が印象的でした。

取材/倉持、蟹江



「忍者の里甲賀」に思いを込めて案内する岩崎さん 櫛野寺にて



花いっぱい駅舎表玄関口にて

発行：滋賀県レイカディア大学草津校サポートの会

編集：草津校サポートの会広報情報部会

〒525-0072 滋賀県草津市笠山7丁目8-138

県立長寿社会福祉センター内

TEL：077-567-3901 FAX：077-567-3906

<http://lacakusatsu.com/1-supportai/index.html>

印刷：ねっこ共働作業所



編集後記

表紙の写真：「母なる湖”琵琶湖”を囲む白き比良山系と菜の花畑」びわ湖ならではの風景です。凛としてまたあたたかく春の訪れを感じます。

卒業生のボランティア活動の取材を通じ、「ボランティアは身近にあり多くの出会いもあり、自分自身も成長し続ける」との思いが伝わりました。

次号より11期のフレッシュな面々とパトタッチです。引き続きご協力ご支援そしてご愛読賜りますようお願いいたします。(10期広報情報部会一同)